

## 隅田公園のサクラについて

隅田公園は江戸時代から知られる桜の名所で、花時ともなると毎年多くの花見客で賑わいます。桜堤と隅田川の流れが織りなす風景は、東京の春を代表する景色といえます。

公園内のサクラは、昭和55年(1980年)にまとめて植えられた後、成長が旺盛な時期(樹齢30~40年)を過ぎ、現在512本が生育しますが、中には樹勢の衰えが著しいものも見られるようになりました。さらに、近年の夏の猛暑や乾燥などの気象の変化が以前にも増してサクラに深刻な影響を及ぼしています。

また、サクラの近くに植えられたクスノキなどの樹勢の旺盛な樹木の陰になり、生育を脅かす要因が増し、これらへの対応が喫緊の課題となっています。そこで、隅田公園が桜の名所であり続けるために、今後サクラをどのように健全に育てていくかを検討しました。

多くの皆さんの協力で公園のサクラを大切に育て、隅田公園が100年先も桜の名所であるように考えていきましょう。

平成29年4月1日



桜広場は空一面をソメイヨシノの花が覆う

### 隅田公園の桜の歴史

“墨堤の桜”は、江戸時代の4代将軍徳川家綱の命により植えられたのが初めといわれ、享保2(1717)年には8代将軍吉宗が100本のサクラを植え足したと記録が残っています。

吉宗は江戸の町の郊外に桜の名所づくりを進め、そこを町民にも開放しました。以来、“墨堤の桜”は上野や飛鳥山、御殿山、小金井堤などと並び、桜の名所として時代を越えて今日まで多くの人に親しまれてきました。

今までに洪水や震災、戦禍などにより、サクラは大きな損害を受けましたが、その都度市民の願いにより復興されました。

隅田公園は昭和50(1975)年に東京都から台東区に移管され、現在見られるサクラの大半は、昭和55(1980)年頃に植えられたものです。

## サクラの診断結果と対策

隅田公園のサクラを1本1本診断した結果、約6割が健全かもしくはやや不健全で、残りの4割は目につく生育障害を持っており、サクラの樹勢衰退が明らかになりました。

樹勢衰退のサクラを元気にさせるには枝を若返らせる剪定や施肥、根を張らす土壌改良などが必要で、区ではサクラの再生を計画的に進めることにしました。

サクラの見応えを維持しながら、良好な生育環境を整え、江戸時代から続く桜の名所を将来にわたってみんなで守っていきます。



千年桜(三春滝桜子孫木)

## 生育に障害のあるサクラの例



根が十分に張れないと幹や枝の老木化が早く起こります。具体的には、枝の先端の伸びが悪くなり花が手毬状に固まって咲き、葉の数が少なくなり、夏に葉がしおれたり、早期に落葉が始まったりします。このような症状のサクラは樹勢回復して再生させることが必要です。

### ソメイヨシノの60年寿命説って本当?

答えはNoです。サクラには動物と同じような寿命はありません。ソメイヨシノは樹齢40年くらいまでは勢いよく育ちますが、それを過ぎると枝の伸びが少なくなり、老木化し、見かけ上樹勢が衰退したように見え、そのままにしておくと枝先が枯れたりもします。こういった状況を寿命だと心配されるのだと思います。

こうならないためには枝の若返りを実施します。元気がない枝を剪定し、併せて施肥や土壌改良することで、新しい芽が伸びて勢いのいい枝をつくります。これを何年か繰り返すことで健全で安定した樹勢で花がたくさん咲くソメイヨシノになります。

サクラの生育に適した環境をつくることで、寿命を心配しなくてもよくなります。

## サクラ再生の基本的な考え方

### 風格と安定感のあるサクラで花見客を魅了

サクラの状態を1本1本で捉えるのと同時に、エリアやゾーンでどのように保全・管理していくかを見定め、剪定や施肥、土壌改良などにより、今以上の健全性(ワンランクアップ)を長く保つことで、サクラに風格と安定感を持たせ、国内外の花見客を魅了します。

### サクラの植栽を工夫して桜の名所としての質を高める

サクラを列で見せたり、群で見せたり、点在させたり、さらには開花期の異なるサクラの品種をうまく配することで、サクラの景観にメリハリと効果的な演出をし、質の高い桜の名所を目指します。

### みんなの協力で100年先も桜の名所

住民ボランティアや公園利用者の皆さんと一緒に桜守り活動を行い、アジサイなどのサクラ以外の季節の花が咲き、100年先も桜の名所であるような取り組みを目指します。

## 再生に向けた取り組み



- ・生育状況を把握して個別管理
- ・エリアやゾーンごとの状況把握
- ・再生のための生育環境の改善(施肥、土壌灌注、植樹拡大)
- ・枝の若返り剪定の実施



- ・並木状のサクラの景観整備
- ・景色にサクラを加えて見せ場づくり
- ・品種を組み合わせ開花期の延長
- ・千年桜(三春滝桜子孫木)のシンボル化



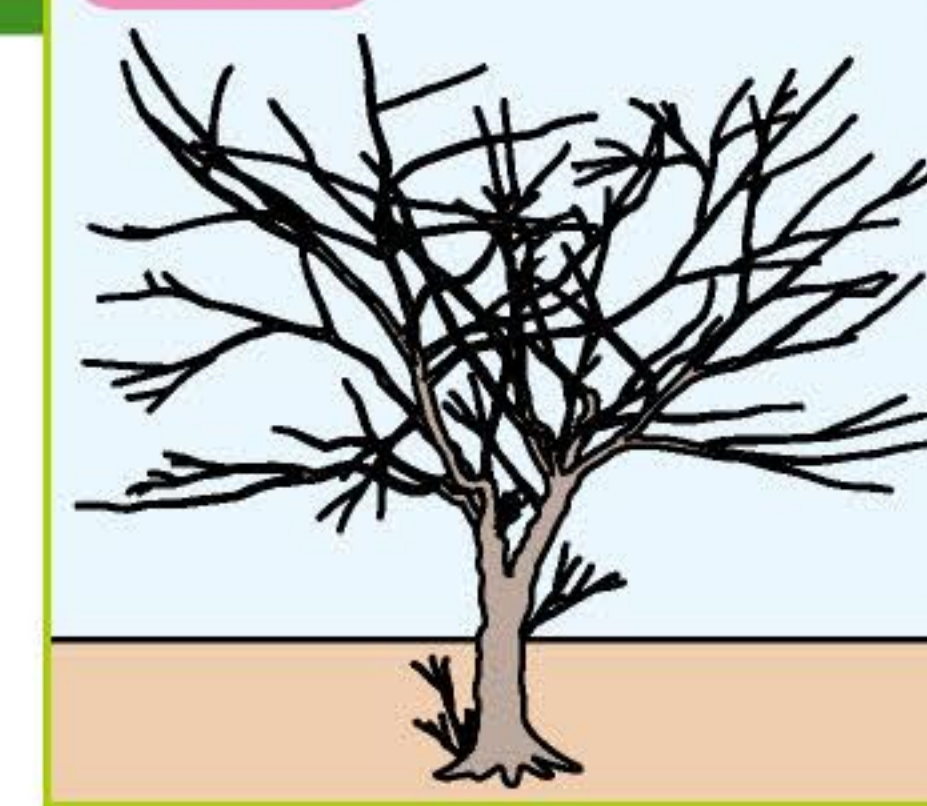
- ・区民ぐるみで点検・保全の仕組みづくり
- ・花の名所づくりの推進
- ・花壇の花でおもてなし

## サクラを若返らせるために

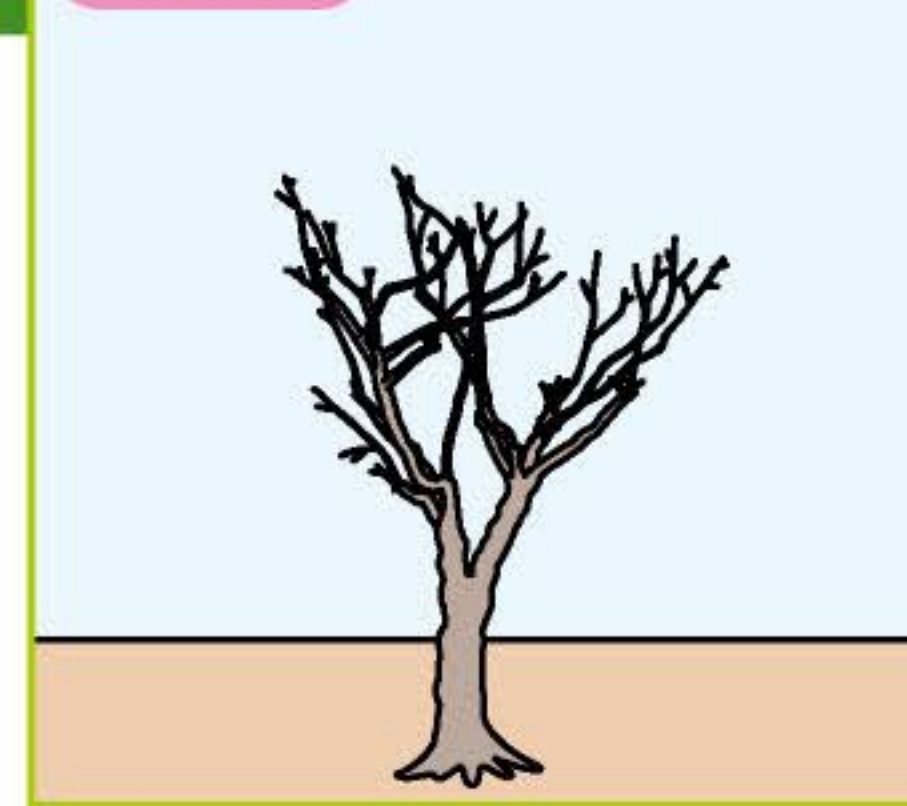
### 若返り剪定

枝が古くなり、枝先の伸びが少なく、花着きも悪くなった枝は剪定します。そうすることで若い枝が伸び始め、その枝に花が再び咲くようになります。

剪定前



剪定後



### 生育環境の改善

#### ①施肥…せび

サクラは大量の花を咲かせるので、その分だけ養分の補給も必要だということはあまり知られていません。また、剪定後の施肥は枝葉の若返りにも欠かすことはできません。サクラの根元周りに穴を掘り、粒状の固形肥料の施用は、簡単にできる施肥です。



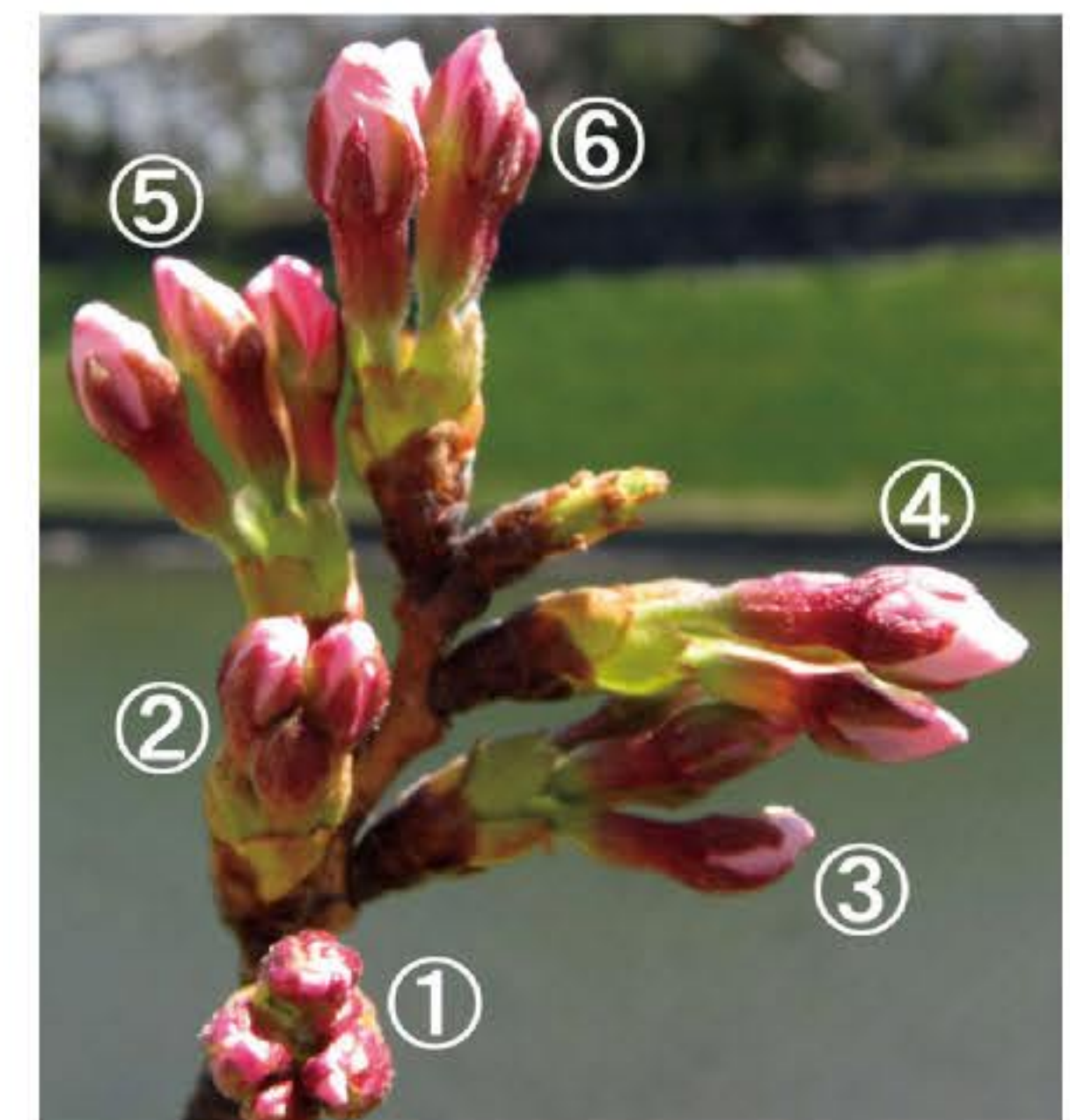
#### ②土壌灌注…どじょうかんちゅう

根元周りの土が固いと根が十分に張れずにサクラの老化が早く起こります。根元周りにドリルで穴を開けてポンプを使って高圧で液肥を圧入します。これにより硬かった土が柔らかくほぐれ、根が張りやすい環境になります。その結果、新しい枝が伸びます。



## 元気度をチェック

(花数調査)



前年に伸びた枝に着く蕾からいくつ花が咲くか調べ、その数でサクラの元気度を判断できます。

- 6個以上 生育旺盛
- 4~5個 通常の生育状態
- 3個以下 生育状態は衰退

上の写真では前年に伸びた枝に着いた蕾の数は6個。それぞれの花数を数えて平均値を花数とします。四方の枝で調べます。